



チーム りきごう

学校通信

2号 力合小学校

校長 岡崎 雄治

先日の運動会はいかがだったでしょうか。開会式でも話しましたが、こどもたち一人ひとり運動会への思いや取り組み方には違いがあり、それを今後の成長につなげるよう意味づけていくことが我々大人の役割の一つだと考えます。大きな行事を経験して(残念ながら参加できなかった場合も含めて)次のステップへと一歩前進です。一日一日をコツコツと積み重ねていく子どもたちを全職員で育ててまいります。

多様性・多面的な見方

6月4日(火)の全校集会では、ある詩を使って子どもたちと一緒に上記タイトルに関わることを考えてみたいと思います。

自身の経験をもとにいろいろなことを判断していく力はとても大切なものです。そのためにも学校生活では様々な体験からの学びを充実させていくよう努めてまいります。一方、「自分とは違う」ことについてはどう受け止めていけばいいでしょうか。毎日一緒に過ごしている他者(ともだち)には自分とは違う部分必ずあります。仮にそれに対して排他的な言動をとってしまった場合、まずは、「子どもたちが知らなかったのでは」という視点から、「知らなければ教える」「知らないことを学ぶ機会を作る」ことが学校の役割でしょう。他者も自分と同じように大切な存在だということを感じる経験、考える機会、実践する場が学校にはたくさんあります。「いじめはいけない」ということを理解できても、自身の言動がいじめにつながる可能性が全くなかったか振り返るためには、多様性や多面的な見方について具体的に学ぶ必要があります。6月は「心のきずなを深める月間」です。そのはじまりを意識して子どもたちに話をします。1年生から6年生までどんな伝わり方をするか、こちらもときどきしますが全校集会が子どもたちの学ぶ場面の一つとなるよう話をしたいと思います。

星野さんの詩画との出会い

先月号では移植したトネリコの木の様子と学校に咲く花々を載せました。県内各地には様々な草花等が観光名所になっているところもありますね。週末に見物に訪れることもあります。そんな私が訪れたい場所の一つに芦北の「星野富弘美術館」があります。先日その訃報に触れた際はとても悲しい思いがしました。

私は初めて教員として赴任した学校で、保護者の方に星野さんのカレンダーを教室掲示用としていただいたことをきっかけにその存在を知りました。花の絵に添えられた言葉が直接心に届くような印象を受けたことを今でも覚えています。

私のお気に入り、
「わたしは傷を持っている
でも その傷のところから
あなたのやさしさがしみてくる」

という、れんぎょうの花に添えられた詩です。先日、校長室前に星野さんの詩画集を展示していたところ、じーっと見入っている子どもの姿がありました。何を感じたのか聞いてみたい思いをこらえながら、その場に素敵な時間が流れているように感じられて嬉しくなりました。

学校のあじさいは場所や品種によって違う表情を見せています。



6月の 保健目標 歯をたいせつにしよう

生活目標 ともだちの心の声、おもいに気づこう